

ZENRAKUREN

MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報

第41回 全国酪農青年女性酪農発表大会②

監査室だより

不正と監査

グループ活動紹介／ Desse Zeny



酪農トピックス／
夏季酪農チビっ子勉強村開催される(仙台)ほか
日本酪農見て歩紀(石川県能登町 西出宏牧場)



9

2012 September No.564



全国酪農業協同組合連合会

第41回 全国酪農青年女性 酪農発表大会

②

酪農意見・体験発表の部

第51回 農林水産祭参加表彰行事
全国酪農青年女性酪農発表大会



最優秀賞に 中村 由美子さん(北海道会議)が輝く!!

東京で開催された農業青年の集いがきっかけで知り合い、神奈川県から鳥取県大山町に嫁いだ山下さん。サイロから32頭牛舎までなんでも手作り、4世代の大家族で酪農に取り組んでおられます。長男が後継者となり、時間の余裕ができたところ、大山乳業の青年女性部長に就任され、食育活動に力を注ぎ、ご自身も県初めての酪農教育ファシリテーターの資格を取得されて、活躍されています。

山下さんの発表は、大変分かりやすく、ご自身の似顔絵のように明るく、パワーに溢れた性格を反映したものでした。特に、口蹄疫が発生し、牧場への出入を躊躇するような雰囲気の中で、あえて「正しい知識を持って、もっと多くの子供たちに牧場体験の場を提供したい」と考えた前向きさや、酪農だけでなく、地元他の農業も巻き込んで食育活動を展開したいという夢をお持ちである点が、高く評価されました。

がんばりしてみよう

満天の星空の下 私らしく

西日本酪農青年女性会議 山下 敏子氏



酪農意見・体験発表の部
審査講評

小林 信一 審査委員長



先月号に続き、今月号では7月12日(木)～13日(金)の両日に、兵庫県神戸市「神戸国際会議場」にて開催された「第41回全国酪農青年女性酪農発表大会」酪農意見・体験の部の審査講評を中心にご紹介します。

ありがとう

中部酪農青年女性会議

鈴木

真子氏



混住化が進む津市で、酪農家の次女として生まれ、農業高校を卒業後、検定員をやりながら家の酪農を手伝っておられる鈴木さん。兄、弟も就農し、酪農労働力が5人となり、河川敷を利用した自給飼料生産に力をいれたり、チーズ加工を始めたりと、家族みんなで力をあわせて、酪農に取り組む姿が印象的でした。また、祖父母へのやさしいまなざしや家

族への感謝の気持ちを持ち続ける真子さん、多くの聴衆が魅了されたことと思います。嫁さんにほしい、うちの息子の嫁さんに来てほしいと思われた方も多かったのではないのでしょうか。いつの日かの酪農発表会で、今回の発表が機で結婚し、2人で酪農に取り組んでいますという発表を、期待しています。

未来永劫のかけ橋

九州酪農青年女性会議

加藤

教昭氏



BSEの発生時に老廃牛の一時預かり施設をJA、行政と一体になって作り上げた経験から、「酪農は個人事業ですが、みんなが集まって活動することはとても大切」と実感した加藤さんは、酪農家戸数が半減する中、なんとか酪農への理解を深めてもらおうと、市内の全小学校12校を手分けして1つずつ巡回する活動を、小林市酪農青年女性連絡協議会として、取り組んでおられます。それぞれの小学校の近くの酪農家が出前授業を担当するという方式も素晴らしく、また県酪

農青年女性協議会が主催して、酪農家1人1人が知恵を絞って作り上げた「宮崎らくのうかるた」もユニークで効果的な取り組みとされます。他の地域でも、「ご当地らくのうかるた」を作る取り組みをされたら、子供たちのためだけでなく、酪農家にとっても酪農の良さを改めて実感する機会になるのではないのでしょうか。加藤さんは発表に際し、原稿を読むことなく、朗々と意見を述べられたことも、感銘を与えました。

女もすなる酪農経営

仲間と学び情報共有で家族力UP

北海道酪農青年女性会議

中村由美子氏



酪農家の4姉妹の長女として生まれた中村さんは、酪農学園大学同期のご主人を「連れ帰り」、家の酪農を両親と4人で取り組んでこられました。しかし、ご主人の難病を機に酪農経営の危機に直面。放水路計画に翻弄され、残った巨額な借金も抱え、ご主人が酪農を止めることを既定なこととする中で、「酪農で背負った借金は酪農で返す」と決意して、父親とともに2haの土地を開墾し、自給飼料畑にするなどして、酪農の再建に奮

闘されてきました。こうした中でも、他の酪農女性との交流や情報発信のために、「きたひとネット」を立ち上げ、その事務局長としても活躍されています。さらに、家族経営協定を結んで、後継者予定の息子さんには、経営移譲までの9年間の課題も文書化して、後継の自覚を促すなどもしています。こうした中村さんの酪農経営への取り組み姿勢は、1人の酪農経営者として他の範になるものであり、貫録すら感じさせるものがあります。

憧れの「うしやさん」になりました！

関東甲信越酪農青年女性会議

石川

文子氏



宇都宮市の非農家出身で、農業高校を卒業して北海道の牧場で実習するも、夢と現実のギャップに耐えられず、酪農から遠ざかってしまいました。しかし偶然の出会いから、狭い土地に、暗い牛舎というマインスのイメージしか持っていなかった栃木の酪農場で働くことに。そこは、花が

ことです。共進会活動などで知り合った現在のご主人と結婚し、酪農家のお嫁さんに。しかし、間もなく「嫁であることの重圧」に押しつぶされそうに。そんな石川さんを助けてくれたのは、酪農女性などで作る「カウベル」というサークル。これからうとともに、酪農の良さを発信する美人酪農女性サークルを続けていただきたい。

愛ターン酪農

東北酪農青年婦人会議 小笠原幸子氏



東京での銀行勤めから、離婚を機に青森のラーメン屋で働いていた時に見初められ、岩手県で酪農家のお嫁さんになることに。思ってもみなかった酪農との関わりも、元来の動物好きから、すぐに作業にもなれ、子牛の哺乳・育成が楽しみに。当初は世話をした子牛が売られていく日は涙がこぼれたが、今では高値で

売れるように祈るまでに、酪農家になりきっています。共進会や地域交流等積極的に外部との交流にも取り組み、岩中酪農青年婦人会議の委員長として、活躍する日々です。小笠原さんの明るさや前向きさが、次女の後継につながったと感じさせました。よい、お婿さんがこの発表を機に見つかることを祈念しています。

以上、今回の酪農青年女性会議では農林水産祭参加を取りやめ、ある意味では自由に発表するという形式になりました。そして、審査規定についても今回見直しを行い、1つ目に、酪農との関わり、酪農に対する熱い想いや酪農経営の活動意欲、2つ目に、家族の協力や地域住民との交流といった周囲とのつながり、3つ目が、活動の広がり、その継続性や影響力、最後に、今後の明確な目標や夢、それが実現の見通しがあるのかの、以上4点を審査基準として挙げられました。審査員としてこれらの審査基準に照らして、そのすべてに対して高い評価を得られた北海道酪農青年女性会議の中村由美子さんに最優秀賞を授与したいと思います。

以上で審査講評を終わらせていただきます。ありがとうございました。



会場風景

新旧役員あいさつ

発表者の表彰に続き、11日の酪農青年総会で役員改選が実施されたため、新旧役員の紹介が行われました。

今回で退任される委員を代表して前田哲也前副委員長より「今日までこうして役員を続けてこられたのは、この会場におられる皆様はもとより、これまでに出会った多くの方々のおかげだと



新旧役員交代の様子

大変感謝している。この組織を通じて、ともに語り合い、ともに汗を流し、ともに涙した、酪農友たちとのかけがえのない6年間であった。今後とも、



◀ 退任する役員を代表してあいさつを述べる前田前副委員長



新役員、そして新しいスタートを切る全国酪農青年女性会議に今まで同様の協力をお願いしたい」と、あいさつと感謝の言葉が述べられました。続いて新役員を代表して、再任された大井幸男委員長より「これからの日本の酪農業をこのスタッフでけん引していく」との決意が述べられました。

3年ぶりの開催となった今回の全国酪農青年女性酪農発表大会は、皆様のご協力のもと、盛況のうちに無事閉会いたしました。新しい役員のもと、引き続き日本の酪農業振興を目指して活動に取り組んでいくと同時に、第42回大会に向けより良い発表大会を目指していきたいと考えております。

今後ともご理解・ご協力の程、よろしくお願いいたします。



No.232
西出宏牧場
石川県能登町

▲ 左から奥さんの協子さん、宏さん、息子の穰さん、穰さんの奥さんの都渡維さん

営農地を一転 一から作り上げた酪農スタイル

地域の紹介

富山湾に面し、自然豊かな環境が残る石川県鳳珠郡能登町。
ほうすぐんのとちよう

平成17年に市町村合併し、現在の能登町となりました。

北は珠洲市と輪島市に隣接し、町の東と南は富山湾に面しており、その海岸線の大半が能登半島国定公園に含まれています。

外浦の豪壮な海食景観に対して、富山湾に面する内浦の柔和な沈水景観は、九十九湾や遠島山など好風景を現しています。北西端にはブナ林で知られ、展望が楽しめる鉢伏山（海拔543m）があり、町域の約



牧場写真



8割が丘陵地となっています。

気候は、年平均気温は13℃前後で、年降水量は1,700mm前後と、北陸地方としては比較的住みよい風土です。

産業分野では、豊かな自然を背景とした第1次産業が基幹産業となっています。

農業では、稲作をはじめとして、ブルーベリーや能登牛が特産品となっています。

漁業では、イカ釣漁業と定置網漁業が全国的にも有名で、定置網で獲られたブリは「宇出津港のと寒ぶり」としてブランド化されています。

今回ご紹介します西出牧場は、石川県酪農農業協同組合（谷内紀明代表理事組合長）に所属しています。石川県酪農農業協同組合の現在の戸数は64戸。

平成23年度の年間生乳生産量は22,099tです。

西出牧場の経緯

西出牧場は、ご主人の宏さん、奥さんの協子さん、息子さんの穰さん、穰さんの奥さんの都渡維さん、宏さんのご両親の6人家族です。

西出牧場の経緯は、宏さんのお父さんが石川県白山市で営農されたことに始まります。家一軒と7反の土地をもらい、本家から分家した宏さんのお父さんは、生活していくために10頭ほどの乳牛を導入し西出牧場がスタートしました。

その後、昭和36年から昭和47年ま

で行われていた「第一次農業構造改革事業」で昭和39年に30頭規模の牛舎を建築されました。

水田地帯に立地しているため、水田を牧草地に利用する水田酪農で、当時としては、新しいスタイルで県内外からの視察者がたえなかったそうです。

昭和49年に宏さんは北海道にある酪農学園大学に入学し、将来は酪農家を志していました。お父さんから「白山市近郊の住宅化が進み、この土地で今後営農していくのは難しい」と言われていたことで、将来はどの職業に就こうか悩まれたそうです。

その後、大学3年生の夏休みに帰郷した際に、肥育農家が離農した跡地があり、そこで営農しないかと

いう県からの打診があり、現在の牧場を訪問したそうです。

開墾されていない山や道路もデコボコで、宏さんは「ここで営農はできない」と最初は断ったそうですが、話がトントン拍子で進んでいき、散々迷った上で現在の能登町で酪農をしていくことを決断されました。

そして、昭和53年12月に入植されました。入植当時は、豪雪で集乳車も来ないなどのトラブル等、雪に苦勞させられたそうです。その後、ブルドーザーを購入して、自分の家から県道までの除雪を行うこともありました。

そのため、県から除雪の仕事を依頼されることもあったそうです。

また、自然が手付かずの状態であった山に育成牛を放し開墾していったそうです。当時、育成牛がワラビを食べて、それが蓄積されて中毒症状を起こし、5〜6頭死なせたこともあったそうです。

牧場の概況

牛舎はパイプライン式の対尻つなぎ牛舎です。

飼養頭数は、経産牛30頭、育成牛



パドックの育成牛

17頭の計47頭。

経産牛は、夏のこの時期は夕方から朝までパドックに出します。

育成牛は、一年を通じてパドックに出すため、足腰の強い牛になります。

作業形態

経営全般は宏さんが担当されています。

穰さんは、昨年の12月から仕事を手伝われるようになり、現在は作業全般を担当されています。前職は酪農とは関係ない仕事であったため、宏さんの指導を受けながら日々勉強



牧草地



自給飼料



機械メンテナンスをされる穰さん

されています。

また、穰さんは、二級自動車整備士の資格を持っているため、機械整備やメンテナンスを担当されています。

搾乳は穰さんと宏さんで行いますが、協子さん、都渡維さんも含め4人が全ての業務をできる体制で、その上で業務を分担されています。

穰さんが入ったことで奥さんの協子さんは、牛舎の景観作りを担当されています。西出牧場は教育ファームに認定されていることもあり、西出牧場には消費者がよく訪問されるそうです。そのため、協子さんは消費者の方が訪問したときに、酪農に対していい印象を抱くように牛舎景観作りには力を入れています。

給与内容

給与内容は、配合飼料（本会…全酪スタート）、ビートパルプ、ラップサイレージ、アルファルファ乾草です。草地面積は、12町歩。自給飼料は10月の5番草まで刈り取ります。通年給与とまではいきませんが、経営には大きく貢献しています。

草種は、イタリアンライグラス、オーチャード、リードカナリイグラス、赤クローバー、白クローバーの混藩でラップサイレージとして給与されています。

今後の目標

宏さんの趣味は自転車。それも本格的なサイクリング大会に出るため、練習は欠かさず行われています。そのサイクリング大会が全国各地で開催されるため、今まで懸命に働いてきてくれた奥さんの協子さんと旅行も兼ねて、様々な土地に赴きレースに出場されたいと話されていました。

穰さんは、作業全般を任されたばかりで、宏さんがやっていたことを受

◀宏さんの趣味の自転車。とてもスポーティーです。



け継ぐことが目標とおっしゃられており、そのため、現在は人工授精師の免許を取るため、勉強されています。

最後に

山間の奥に立地して豊かな自然が残る西出牧場。

宏さんと話をしていて感じたのは、酪農以外に目を向けられていて、そこで感じた経験や感覚を酪農にフィードバックされているということ。

宏さんは「毎日が忙しい酪農と言う仕事に消費者が関心を持ってほしい。そして、酪農の魅力を感じても



協子さんが手入れされている花壇

らい、ひいては就農と言う道を選んでほしい」と語られておりました。スポーティーな自転車にまたがり颯爽と走る姿とは対照的に、広い視野から酪農業界全体を考えられている姿は、頭が下がる思いでありました。穰さんは、そんな宏さんの背中を見て育ったため、目標はお父さんとおっしゃられ、真摯な姿勢で機械整備をされている後姿は、これからの西出牧場を期待させます。今後も地域での活動を軸にますます発展されることを祈念するとともに、今回の取材に協力していただいたことに心から感謝いたします。

不正と監査

今日のように、企業が内部統制の構築を求められるようになった背景には、企業の不祥事・不正事件の多発がありました。場合によっては企業の存続さえ危うくする不祥事・不正事件は、なぜ起こるのか、どのようにして防げばいいのか。
今回は、「不正と監査」について考えてみたいと思います。

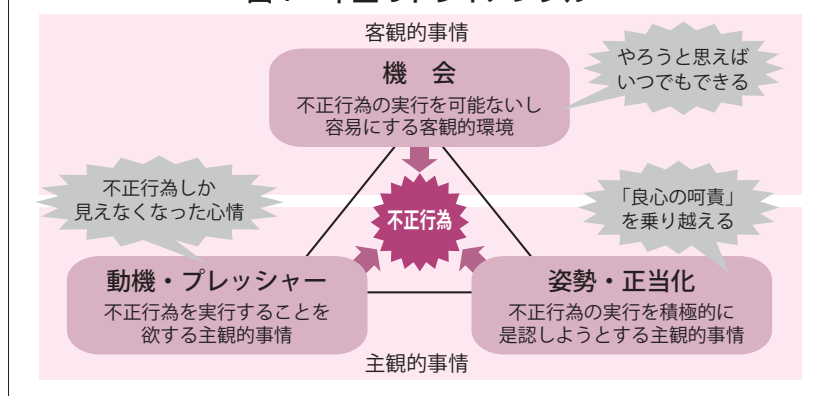
不正行為とは

不正行為とは、「意図的に相手を欺き、相手がそれを信用することによって相手に損失が生ずる行為」（公認不正検査士協会による）と定義されます。企業活動における具体的な不正行為としては、粉飾決算と横領（背任、汚職）が挙げられます。粉飾決算とは不正な財務報告のことであり、横領とは資産の流用のことです。

不正が起こるメカニズム ～不正のトライアングル

人が不正行為を実行するに至るメカニズムについては、米国の犯罪学者D. R. クレッシュー（1919～1987）が実際の犯罪者を調査して導き出した「不正のトライアングル」理論が広く知られています。クレッシューは、不正行為は、不正リスクの3要素「機会」「動機・プレッシャー」「姿勢・正当化」が全てそろったとき「不正のトライアングル」

図1 不正のトライアングル



（図1のとおり）
ができたときに起こるとしました。

1. 機会

「機会」とは、不正行為の実行を可能ないし容易にする客観的環境、不正行為をやろうと思えばいつでもできるような職場環境のことです。例えば、「個人への権限集中」、「相互牽制の欠如」、「人事の固定化」等が見られる職場環境です。

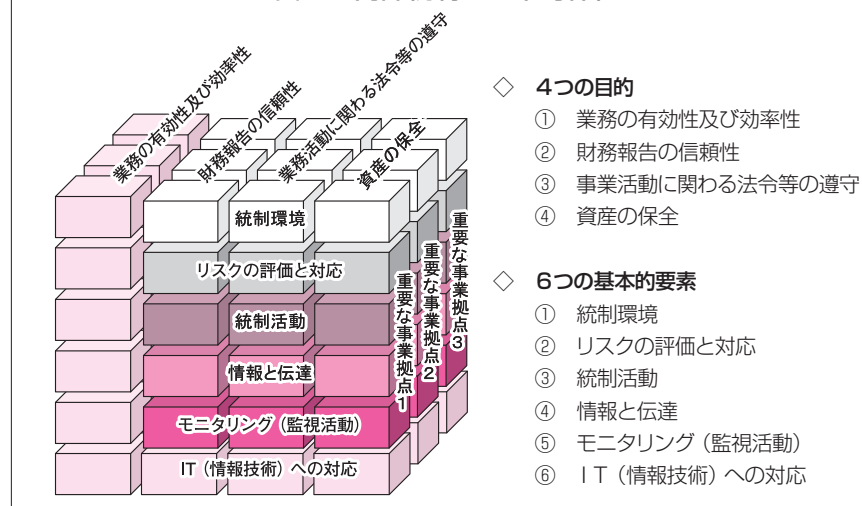
2. 動機・プレッシャー

「動機・プレッシャー」とは、不正行為を実行することを欲する主観的事情、自分の望み・悩みを解決するためには不正行為を実行するしかないと考ええるに至る心情のことです。例えば、「ワンマン経営者による（恐怖政治）（売上至上主義による）過度なノルマ」「業績悪化」に対するプレッシャーです。また、「借金返済に迫られて苦しんでいる」等の個人的事情もこれにあたると言えます。

3. 姿勢・正当化

「姿勢・正当化」とは、不正行為の実行を積極的に是認しようとする主観的事情、自分に都合の良い理由をこじつけて、不正行為を行う時に感じる「良心の呵責」を乗り越えてしまう姿勢のことです。なぜ、乗り越えてしまうのか、それは、「倫理観の欠如（不

図2 内部統制の基本的枠組み



（金融庁 企業会計審議会『財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準』で定義された内部統制の基本的枠組み）

不正防止の仕組み～内部統制

企業の不祥事・不正事件の多発を背景に内部統制の構築が求められるようになったことは先ほど述べたとおりです。企業経営者は、不正防止の仕組みとして内部統制の構築を進めています。内部統制の基本的枠組みは図2のとおりですが、

足）「遵法精神の欠如（不足）」「不誠実な態度」等によるものです。

4つの目的の中には「財務報告の信頼性」(①不正な財務報告＝粉飾決算)と「資産の保全」(②資産の流用＝横領)が明記されており、内部統制の主たる目的が不正防止であることがわかります。

6つの基本的要素について見ると、それぞれ、以下のような機能を有しています。

1. 統制環境

組織倫理・経営理念・経営方針等の価値基準や人事制度等

2. リスクの評価と対応

職場に潜む経営リスクを発見し、その重要性を評価して対策を検討するという一連のリスク管理プロセス

3. 統制活動

社内規程・マニュアル等で定められた現場の業務管理体制そのもの
この統制活動を業務手順に従って配列したものが業務フロー

4. 情報と伝達

業務ライン上の指揮系統のほか、業務ラインから独立して運営される内部通報窓口やお客様相談窓口等の情報伝達ルートにより、情報を収集・分析して共有する機能

5. モニタリング (監視活動)

内部監査や会計監査・業務監査等の監査機能

6. IT (情報技術) への対応

ITを理解するとともに、業務フローをIT化する取組み

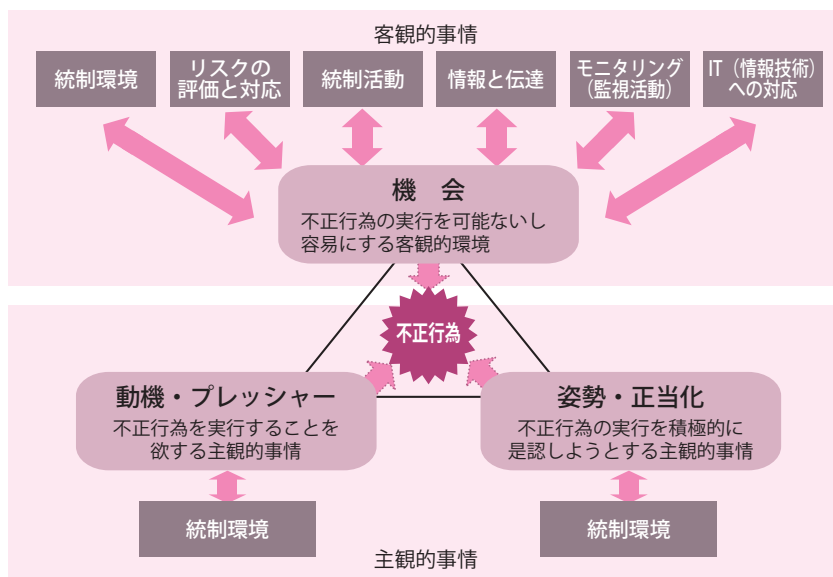
不正と監査

内部統制の4つの目的を達成するために、これら6つの基本的要素を適切に整備・運用することが、不正リスクの3要素を抑止し、不正行為を防止することにつながります。(図3のとおり)

では、このような不正防止の取組みの中で、「監査」はいったいどのような役割を果たすのでしょうか。

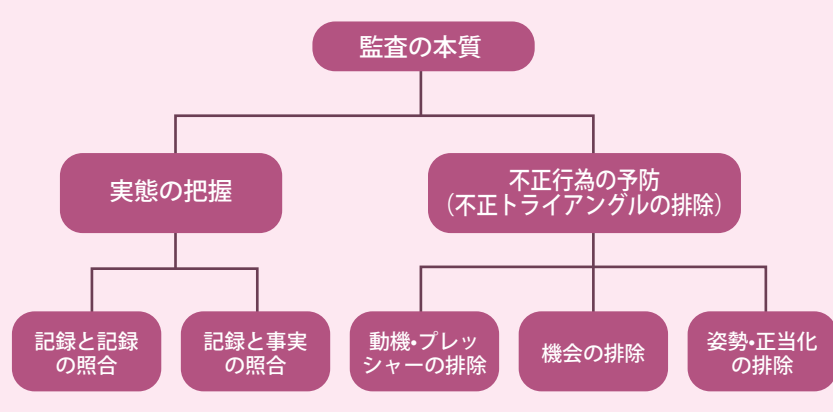
図3では、モニタリング(監視活動)により「機会」という客観的事実の不正リスクを抑止していることを示しています。また、「内部監査」には、「内部牽制」が機能しているかどうかを検証する役割があります。図3で言うと、「統制活動」がちゃんと行われているかどうかのモニタリング(監視活動)です。「内部監査」には、このように「内部統制」のシステムが有効であることを保証するという重要な役割があります。

図3 内部統制システムによる不正リスクの3要素の抑止



てみると、監査を実施することは、「実態の把握」と「不正行為の予防」を行うことであると言えます。監査では、実務として「記録と記録の照合」と「記録と事実の照合」を行い、不正の事実がないかどうか「実態の把握」をします。一方、「実態を把握する監査が行われる」ということ自体が、「機会・プレッシャー」「姿勢・正当化」という主観的事実

図4 監査の本質



事情にも働きかけ、不正のトライアングルを排除することにつながることが期待されていると言えます。(図4のとおり)

【参考文献】

- 「会計ドレッシング」村井直志著、東洋経済新報社刊
- 「不正リスクへの取組み」株式会社ディー・クエスト
- http://www.d-quest.co.jp/rmc/concept/business_concept.html



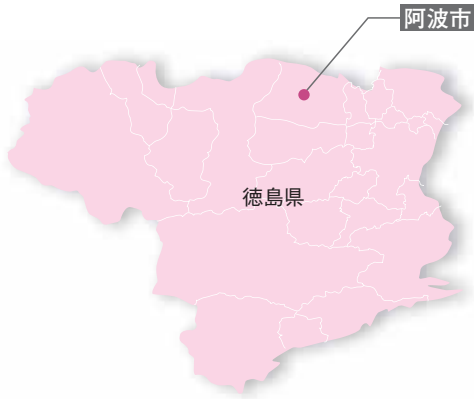
牛を健康に飼えば、

お金(ゼニ)がつかってくる

今月号では、徳島県のデッセゼニ (Desse Zeny) というグループを紹介します。

徳島県酪農業協同組合所属の酪農家5戸の集まりで、毎月乳牛の飼養管理の勉強会を行い、全員の成績の向上を目指して頑張っておられます。

今回は、グループの方全員と、勉強会の先生をしておられる渡邊氏(現徳島県東部農林水産局〈吉野川〉 副局長)にお忙しい中集まって頂き、お話を伺いました。



阿波市

徳島県



メンバーの皆さん

グループ名の由来

グループの名前は、「Desse Zeny — 牛を健康に飼う研究会」で、「牛を健康に飼うこと!これが全て!!これに反することはしてはいけない」が合言葉です。逆さまから読めば、「ゼニデッセ」で、牛を健康に飼えば、ゼニ(お金)がつかってくるという思いが込められているそうです。

渡邊氏の意向で、夫婦での参加が条件となっており、現在は、大松さん、江本さん、向さん、高瀬さん、及び横手さんの5戸の酪農家夫妻計10名が参加されています。

発足のきっかけ

平成12年に、大松氏が所属していた酪農組合での勉強会で渡邊氏の話を聞き、当時、各酪農家とも分娩時の事故や夏場に廃牛が多く出ていたため、その改善のため指導をお願いしたことが最初のきっかけとの事でした。

本格的に勉強会を始めたのは平成14年で、大松弘実さんが仲の良かった酪農家や親戚の酪農家にいっしょに頑張ろうと声をかけて集めました。渡邊氏としては、「みんなが良くなっていつてもらえれば」との思いで、先生を引き受けたとのことでした。

活動内容

開始してから、毎月1回、約10年間、ほとんど欠かさず、グループのリーダー



勉強会

である大松弘実さんの自宅で勉強会を実施しています。酪農経営改善に関する考え方として渡邊氏は「何も難しいことをしなくても良いのです。酪農家として行わなければならない当たり前のことを、当たり前に行うだけで良いのです。昔か

グループ名	Desse Zeny (デッセゼニ)
リーダー	大松弘美
所属	徳島県酪農業協同組合
メンバー数	10名

らの考えや思い込みに囚われることなく、正しい知識に基づく技術を手順どおりにきちんと行えば良いのです。つまり、牛を健康に飼うことだけに集中すれば、それだけで必ず経営は良くなりま

す」とおっしゃっていました。

具体的活動は、渡邊氏が事前に各農家を訪問し、牛の様子等を見て回り、気になったことがあれば、それをテーマに勉強会で話すというもので、牛の栄養生理や搾乳衛生、飼料の給与内容、給与方法やカウコンフォートの方法等の説明、牛群検定の成績に基づく改善方法の提案

が主な内容となっています。

しかし、ただ教わるだけの勉強会ではなく、その時に意見交換も含めて酪農家同士、考えを発表し合うことで、お互いに議論・提案・忠告しあう事が成績の向上の要因の一つにもなっている様に思われます。大事なことは、メンバーが議論

した内容を自分の牛舎で実践していることです。ご主人が実行していないと、奥様が実行するようにご主人の背中を押す。この点は、渡邊先生のご夫妻での参加のねらいが活きています。「みんなが努力しており、ついていけるようにしないとやっていけない。今日議論したこと

をやっていないと次の勉強会に出られない」という危機感が芽生え、切磋琢磨が良い緊張感を生んでいるようです。

途中からこの勉強会に参加したメンバーは、このグループの成績が上がってきたのを目の当たりにし、何か秘訣があるのではないかと思ひ参加したとのこと

です。9,000kgの乳量で永年足踏みをしていた方は、勉強会での内容を実践するとみるみる成績が上がりすぐに乳量

1万kgになったとのことと、ご自身もびっくりされたそうです。「当初は、成

績で他のメンバーに差がついていたが、頑張って改善に取り組んでいった。その結果、みんなのレベルが上がった」と自信を持って発言されていました。勉強会

以外の時でも、夫婦間で酪農経営に関する事で、今かえる問題点や、直接目についた事等を、牛舎で話し合う様にして

いるメンバーもおられました。

長い間続けてこられたのは、渡邊氏の指導力、技術力はもちろんの事、「リーダーが良い、一緒に居たら楽しい」との意見もある様に、人の悩みを聞いたり、励ましたり励まされたりと大松弘美さんのリーダーとしての働きや、グループ構

活動が成功した理由

成員の団結力の強さがあったからの様に

今後に期待する

「勉強会をするまでは、色々な問題があってもどうして良いか分からず、獣医の先生にお世話になったり、指導機関の人に聞くばかりでしたが、勉強会のお蔭で、今では自分たちで考え、対処することが段々と出来るようになってきました。今後も勉強会を続け、特に牛が健康であるにはどうしたら良いかをみんなで話し合いながら酪農経営を行っていききたい」とリーダーの大松弘美さんは話されています。それでも「今は、基礎ができてきた段階だと思います。例えるなら、義務教育を卒業したレベル」と謙遜されています。

「今後更に一つひとつ課題をクリアーし続けなければならない、ひとつ課題を解決すると次の目標が出てくる」との意見もある様に、現在のレベルには満足されていない人が大多数です。また、「続けられたのは、渡邊先生の存在が大き

い」との考えをみなさんお持ちで今後も渡邊氏を中心に経営、飼養管理技術の向上に取り組んで行かれると思います。

今後の、グループのみなさんや、渡邊氏のご活躍に期待したいと思います。



毎月1回の勉強会

札幌
支所発

「祭りinほろろ」開催

7月31日(火)にくしろ丹頂農業協同組合幌呂支所にて夏祭りが開催され、地元住民約350人が集いました。祭りは地元農業者が主催し、地域の親睦と活性化を図るため行われ、農協青年部等が出店しました。札幌支所釧路事務所も後援し、当日は北福岡工場で製造したゴーダチーズの試食会、国産牛肉を使った酪農家ビーフカレーの販売等を行い、盛況を博しました。(T.K)



▲ 会場の様子



◀ カレーが人気



準備中 ▶

札幌
支所発

北海道・府県畜産主任者会議開催

8月3日(金)札幌市京王プラザホテル札幌にて北海道・府県畜産主任者会議が開催されました。この会議は道産初妊牛の購買動向と資源状況について意見交換するもので、今年は全国から乳牛購買担当者等68人が出席しました。

冒頭で岡田征雄札幌支所長が「全国の生乳生産量



▲ 会議風景

は4～6月の累計で2.2%増となっている。今後の増産維持には秋までにどの程度乳牛資源を確保できるかにかかっている。北海道と府県の橋渡しをすることで資源が最大限に活かされることを期待する」と挨拶しました。会議では府県側から「離農が増加し、生産基盤の確保が難しくなる」との懸念が示され、初妊牛価格の高騰から助成を利用し雌雄選別精液による後継牛確保対策をする農家が増えているとの報告がされました。北海道側からは「道北・道東では資源確保の目途が立っているが、十勝では春の分娩が減少の見通しである」との報告がされ、活発な意見の交換が行われました。

会議後は農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究所の畠間真一主任研究員より「牛乳頭腫症の発生状況と防除対策について」の講演をいただきました。

(T.K)

仙台
支所発

夏季酪農チビっ子勉強村開催される — 東北酪農青年婦人会議 —

8月3日(金)～7日(火)の5日間、東北酪農青年婦人会議（半澤善幸委員長）と渋谷区少年団体連盟（鈴木貴代子会長）の共催による「夏季酪農ちびっ子勉強村」が開催されました。

この催しは、東北酪農青年婦人会議と渋谷区少年団体連盟との「なかよし交流事業」の一つとして毎年この時期に開催されているもので、自然に親しむ機会の少ない東京の子ども達が東北の酪農家へホームスティし、酪農作業や農村生活を体験し学ぶことにより、都市と農村のそれぞれの役割を理解し連帯を深めることを目的としています。

2年ぶりの開催となった今年は、小学生2名の参加でしたが、滞在した家の子供たちとも直に仲良くなり、豊かな東北の自然に囲まれながら、酪農の手伝いや山遊び、川遊びを思う存分に満喫し、喧騒の町渋谷に帰っていきました。

(N.T)



東京
支所発

第67回全酪長野協議会開催

7月20日(金)長野県諏訪市「RAKO華乃井ホテル」にて第67回全酪長野協議会（会長：伊那酪農業協同組合 代表理事組合長 桃澤 明氏）が会員の伊那酪農業協同組合、佐久酪農業協同組合、南信酪農業協同組合、龍峡酪農業協同組合、全農長野県本部、全酪連東京支所の6会員、総勢28名の出席を得て盛大に開催されました。

役員会に引き続き平成24年度通常総会が開催され、桃澤会長のご挨拶の後、会長を議長に選出し総会が進行され、全提出議案が承認されました。また、今回は役員改選が行われ桃澤会長始め全役員が再任されました。

通常総会の後、全酪連東京支所北関東事務所 上原所長を講師に「口蹄疫発生時の全酪連南九州事務所での対応」をテーマに研修会が開催されました。一昨年の口蹄疫発生直後の混乱した状況、酪農経営再建のための全酪連独自対策の策定、そして支

援策の実施までを時系列に沿って報告しました。炎天下での行政設置消毒ポイントでの作業や、殺処分補助の実態等を含め発生現場の実情も具体的に説明されました。近隣諸国では現在も口蹄疫等家畜伝染病が発生しており、参加者一同、防疫体制の重要性を強く認識する研修となりました。

研修会終了後には同ホテル内で懇親会を行い、会員相互の情報交換を行うとともに懇親を深めました。

(N.H)



▲ 桃澤会長挨拶

飛騨酪農協より

牛舎屋根への石灰塗布で暑熱対策

— 飛騨酪農農業協同組合 酪農青年部・検定組合 —

8月2日(木)に飛騨酪農農業協同組合酪農青年部と検定組合役員が中心となり、夏場の暑熱ストレスを少しでも軽減させるための対策として、昨年に引き続き牛舎屋根への石灰塗布の取組みが行われました。平成22年の猛暑時には、山間地域である飛騨高山でも気温の高い日が続き、多くの農家で猛暑の影響を受けました。

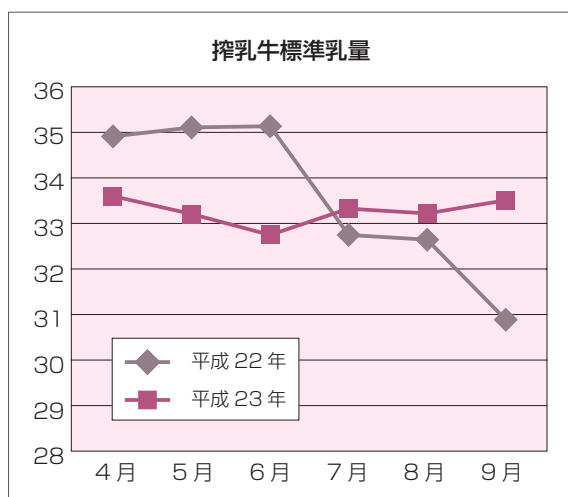
今回は武藤康司牧場の牛舎で石灰塗布を実施。約700㎡の屋根を、酪農家6名、組合職員2名、関

係者3名で約2時間かけて塗布専用石灰を塗布しました。

屋根に水で溶いた石灰を動力噴霧器で散布して覆い、全面白色にすることで、屋根に当たる光を反射し、熱による温度上昇を和らげます。塗布前と塗布後の温度測定の結果、牛舎屋根の表面温度は約10℃低下し、牛舎内は時間により1℃から3℃と涼しくなり、温度低下に効果がありました。また昨年の効果を検証した結果、暑熱ストレスの影響をほとんど受けなかったことがグラフでわかります。

関係者からは「現在、2戸の農家で実施しているが、作業の効率化等を検討し、さらに実施農家が増えればと考えている。従来の暑熱対策と屋根への石灰塗布と合わせて、牛たちがより快適に過ごす環境を作ってあげたい」と効果に期待する声があがっています。

(飛騨酪農農業協同組合 酪農部 丸山雅義)



石灰の
塗布作業 ▶



▲ 石灰塗布後の牛舎

福岡
支所発

沖縄県酪農青年女性部連絡協議会設立総会 開催される

去る7月20日(金)、沖縄県酪農農業協同組合(新里重夫組合長)において、沖縄県酪農青年女性部連絡協議会設立総会が開催されました。

同組合では女性部が1999年に、青年部が2004年に設立され、牛乳消費拡大イベント等の活動に取り組んできましたが、これらの活動は常に青年部・女性部が一体となって取り組んでおり、また同じ目



▲ 新里組合長



▲ 新里菊也氏

標を掲げて活動を行っていたことから、更なる連携強化と活動の幅を広げていくことを目的に青年部・女性部を合併し青年女性部連絡協議会を立ち上げる事となりました。

当日は青年部・女性部会員20名が出席、開会にあたって青年部会長の新里菊也氏が「青年女性部連絡協議会設立を機

に、組合と連携し牛乳・乳製品の消費拡大運動を率先して行い、一般消費者

への牛乳消費PRを行うと共に、酪農家同士の交流を強化し、組織運営や酪農経営等の勉強会の開催等、活動の幅を広げていきたい」と挨拶。続いて新里重夫代表理事組合長が挨拶し、青年女性部連絡協議会への激励の言葉を述べられました。

設立総会では役員の選出が行われ、新会長には新里菊也氏が選出されました。また青年女性部連絡協議会規約、事業計画案が議案として上程され、全て全会一致で承認されました。

新たなスタートを切った沖縄県酪農青年女性部連絡協議会のますますのご発展を祈念いたします。

(Y.K)



▲ 出席者全員で綱領唱和

原稿募集

「酪農トピックス」では皆様からの記事を募集しております

共進会、B&W、酪農祭り、親睦スポーツ大会といった催事情報から組合住所の変更や移転等案内情報、そして直営店情報や組合の自慢情報まで、酪農トピックスでは会員の皆様からの原稿を募集しております。本コーナーは会員の皆様の情報交換の場です。ぜひご活用ください。

送付先 皆様のお近くにありますが本会支所までご送付・ご連絡ください。

■札幌支所

〒060-0003

札幌市中央区北3条西7丁目1 酪農センター 5階
tel. 011-241-0765

■仙台支所

〒980-0021

仙台市青葉区中央1-7-20 東邦ビル3階
tel. 022-221-5381

■東京支所

〒108-0014

東京都港区芝四丁目17番5号 田町プレイス5階
tel. 03-5931-8011

■名古屋支所

〒465-0095

名古屋市名東区高社1-89 第2東昭ビル2階
tel. 052-771-7104

■大阪支所

〒532-0011

大阪市淀川区西中島5-14-10 サムティ新大阪フロントビル6階
tel. 06-6305-4196

■福岡支所

〒812-0016

福岡市博多区博多駅南1-2-15 事務機ビル7階
tel. 092-431-8111

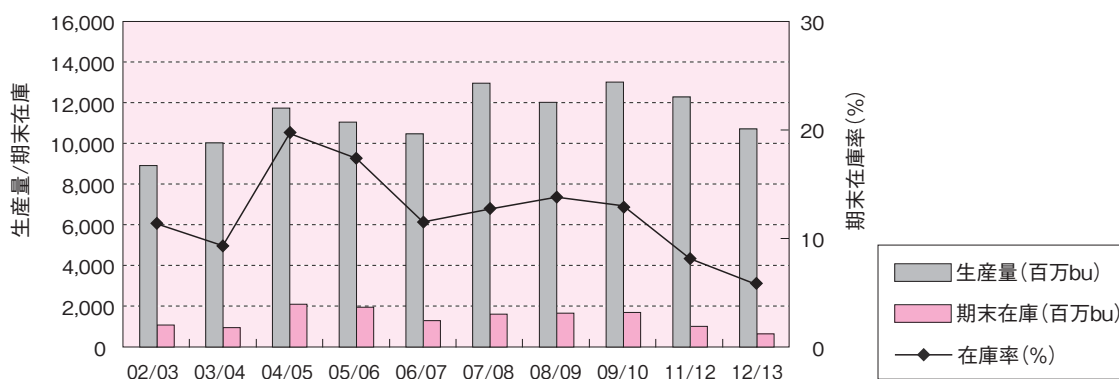


原料情勢

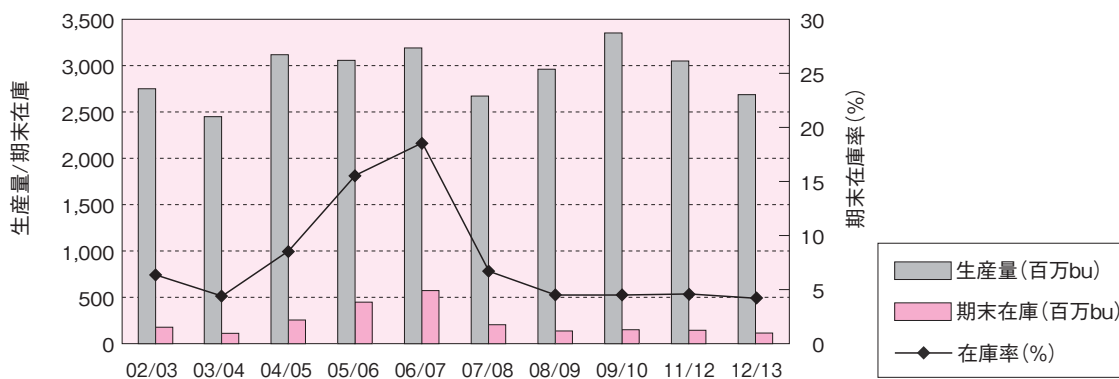
平成24年8月

8月10日発表 米国農務省トウモロコシ 需給予想	【11/12年産】 作付面積91.9百万(前月91.9百万) エーカー、単収147.2 (147.2) bu/エーカー、生産量123億5,800万 (123億5,800万) bu、総需要量124億9,000万 (126億500万) bu、期末在庫10億2,100万 (9億30万) bu、在庫率8.2 (7.2) %。 【12/13年産】 作付面積96.4百万(前月96.4百万) エーカー、単収123.4 (146.0) bu/エーカー、生産量107億7,900万 (129億7,000万) bu、総需要量112億2,500万 (127億2,000万) bu、期末在庫6億5,000万 (11億8,300万) bu、在庫率5.8 (9.3) %。
トウモロコシ相場動向	7月後半から800¢を超え現在は770～800¢前半で値動きをしている。主要産地であるコーンベルトの作柄状況から見て生産量見通しはまだまだ過大評価されている可能性がある。今回発表の在庫率実現には更なる価格の高騰と需要の減退が必要との見方もあり引き続き上値への警戒が必要と思われる。
国内産大豆粕	米国産大豆需給予想の12/13年の期末在庫見通しは1億1,500万bu、在庫率4.19%。シカゴ大豆相場は16ドルを下回ることがほとんどなく、市場最高値水準での高止まりとなっている。 国産大豆粕の発生量は依然低調であり、国産大豆粕の減少分を輸入大豆粕で補っている状況である。現時点では輸入大豆粕は順調に入船しており、受け渡しには問題ない見込。
糟糠類	小麦の挽砕量は回復基調だが、使用量が微増していることから現時点での需給は非常にタイト。今後も急激に増えることは考えにくいため、使用量が減らない限りは需給は締まったままと思われる。グルテンフィード発生量は通常なら増加する時期だが、思ったように増えてはならず、港によってはタイトになっている模様。
海上運賃	海上運賃は鉄鉱石、石炭の引き合いから需給にタイト感があつたが造船による船腹供給の増加、欧州危機の影響により現在は若干緩和傾向にある。しかし、秋口からは北米の新穀出荷が開始されるため、需給は引き締まる見通し。

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移



輸入粗飼料の情勢

平成24年8月

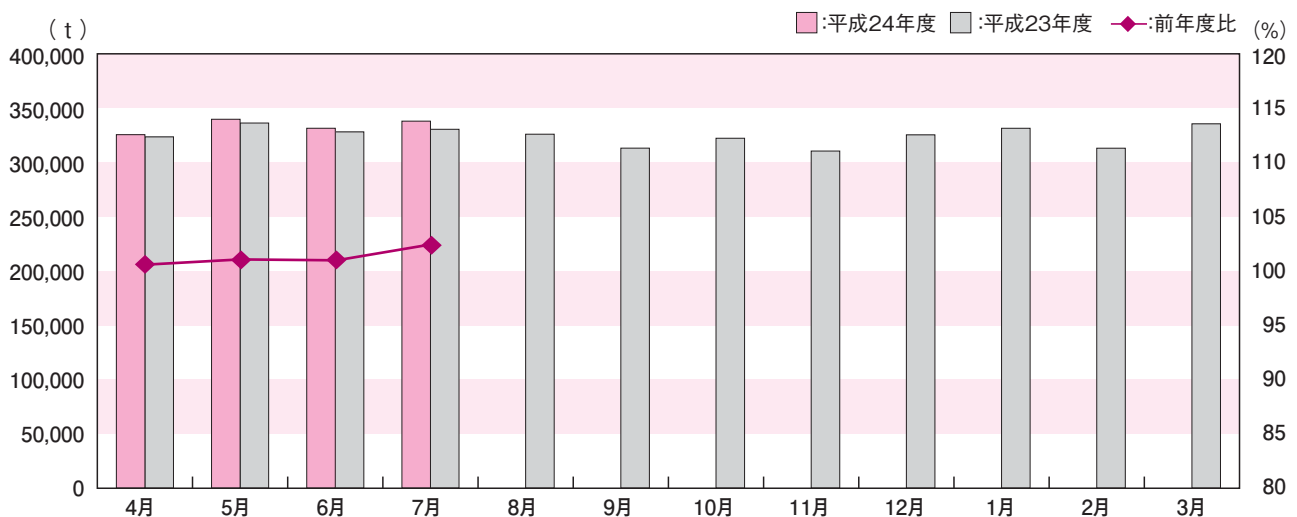
米国内の早魃の状況	トウモロコシの主産地である中西部では極めてひどい早魃に見舞われているが、輸出口乾牧草の主産地である西海岸（ワシントン中やオレゴン州、カリフォルニア州）では、あまり早魃傾向ではない状況。しかし、ほとんどの草種が収穫時期に雨当たり被害が発生する未曾有の事態となっている。 輸出口スーダングラスとクレイングラス、およびバミューダの主産地であるインベリアルバレーで、7/30~31にかけて非常に激しい降雨があり、甚大な雨当たり被害が発生している。	 ▲ インベリアルバレー降雨
ビートパルプ	【米国産】主産地であるミネソタ州とノースダコタ州はあまり早魃傾向ではないため、生育は概ね順調に推移している模様。しかしながら、穀物相場が高騰しているため、米国内酪農家からの引き合いが増えることが懸念されている。	
アルファルファヘイ	【ワシントン産】コロンビアベースンでは、5月上旬から始まった1番刈の60%程度が雨当たり被害を受けた。6月下旬から始まった2番刈でも50-60%程度の雨当たり被害を受けた模様。そのため、雨当たり被害を避けて収穫された刈遅れ気味のスタックや、ノーレイン品についても、湿度が高かったことによる色あせ（ブリーチ）や、暑さにより開花がみられるスタックが多くなっている模様。1番刈と同様に3タイの発生量が減少し、生産効率の高いBIGベールでの生産が多くなっている。	 ▲ アルファルファ 2番刈検品
	【オレゴン産】クリスマスバレーでは、6月下旬から1番刈の収穫が始まり、7月中旬までには収穫が終了した。6月に入ってから気温の低い日があり、降雪もあった模様で、生育が思うように進まず、単収が70%程度にまで減少したと伝えられている。クラマスフォールズでは、6月上旬から1番刈の収穫が始まっているが、クリスマスバレーと同様、気候の影響により単収が70-80%程度にまで減少している。	
	【ネバダ産】6月上旬から1番刈の収穫が始まっているが、6月中下旬に降雨があった模様で、40-50%程度が雨当たり被害を受けたと伝えられている。2番刈は7月上旬から収穫が始まっているが、7月にも降雨があったことから雨当たりや刈遅れ気味のものが多く発生することが懸念されている。	
	【ユタ産】5月下旬より1番刈の収穫が始まり、6月下旬までにはほぼ終了した。収穫時期の天候は概ね良好で、雨当たり被害はほとんどなかった模様。7月上旬から2番刈の収穫が始まっているが、一部で雨当たり被害が発生していると伝えられている。	
	【カリフォルニア産】インベリアルバレーでは、5-6番刈の収穫が始まっている。7月の激しい降雨によりアルファにも影響があったものの、一般的に成分・品質が落ちる「サマーヘイ」が中心となっているため、日本向けには大きな影響がないと考えられている。今後はUAE・中国向けの動向次第ではアルファルファ全体で間接的に影響を受ける可能性もあり、注意が必要。	
チモシー	【米国産】1番刈の収穫が6月中旬から本格的に始まり、良品の収穫が期待されていたが、6月下旬、7月の降雨により状況が一変。エレズバークでは60-70%程度が、コロンビアベースンでは40-50%程度が雨当たり被害を受けたと言われている。当初は軟化することが予想されていた産地価格も、一転して堅調に推移し、さらに高騰することも懸念され始めている。	
	【カナダ産】レスブリッジでは1番刈の収穫が7月中旬から、ドライランドでは7月下旬から始まっている。両産地とも、米国産1番刈の状況を受けて、12年産は引き合いが強まることが予想されている。	
スーダン	【インベリアルバレー産】12年産は、1番刈の収穫が6月上旬から本格的に始まっている。産地では早播きの2番刈や小麦収穫後に播種する遅播きのスーダングラス（アフターウイト）の収穫が待たれていたが、7月末の激しい降雨により、茎細ハイグレード品はもちろん、中間グレード品やローグレード品の発生量についても、予想よりも減少する可能性が出てきている。	
クレイングラス	産地では3番刈の収穫が始まっているが、7月末の激しい降雨によりベ어링を終える前の圃場で雨当たり被害を受け、韓国と日本向けに強い需要が今後も続くと思込まれているため、産地価格は引き続き堅調に推移している。	
バミューダ	現在2-3番刈の収穫が進んでいるが、7月末の激しい降雨による雨当たり被害を受け、品質と生産量への影響が懸念されている。国内向け・輸出口ともに強い需要が続くと予想されているため、今後の産地価格も弱含むことなく推移することが予想されている。	
ストロー類	12年産について、フェスキューストローは7月中旬から、ライグラス（ペレニアル種）ストローは7月下旬から収穫が始まった。年々減少している作付面積は今年もやや減少することが予想されているため、12年産以降もストロー類は生産量がさらに減少し、産地価格も弱含むことなく推移することが懸念されている。	
オーツヘイ	【西豪州産】5月中下旬から始まった播種は終了した。6月に十分な降雨があり、生育は順調と伝えられていたが、7月の記録的な降雨不足により早魃傾向となっている。このまま乾草した気候が続けば一昨年の10年産のように極端に収量が少なくなること考えられる。	
	【南豪州産】5月上旬から始まった播種は終了。西豪州とは違い、7月にも例年並みの降雨があったため、生育は順調と伝えられている。	
	【東豪州産】ヴィクトリア州での5月下旬から始まった播種は終了。南豪州と同様に7月に例年並みの降雨があったため、生育は順調と伝えられている。	

平成24年度（7月） 地域別生乳生産量

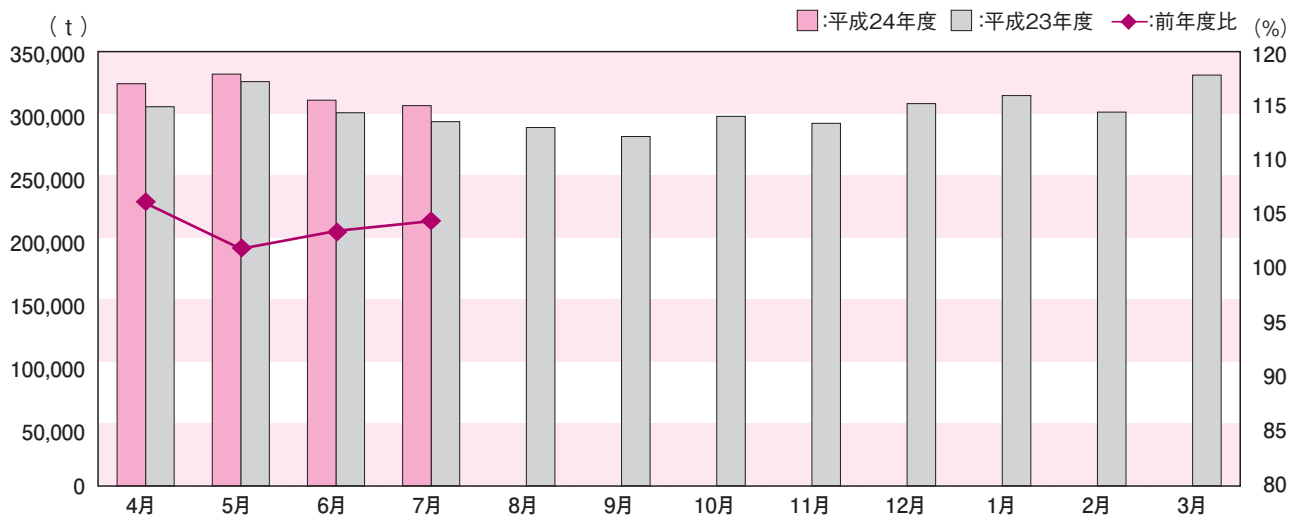
単位：t

	全 国	北海道	東 北	北 陸	関 東	東 山	東 海	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
23 年度 7 月	623,805	330,363	47,146	8,259	87,626	11,259	32,171	16,385	24,631	10,943	52,721	2,301
8 月	614,552	325,838	48,003	8,025	85,889	11,088	31,040	16,162	24,107	10,659	51,538	2,203
9 月	594,466	313,005	47,323	7,707	82,863	10,857	30,317	15,519	23,565	10,534	50,642	2,134
10 月	619,843	322,112	50,137	8,147	88,027	11,085	32,618	16,214	24,827	11,039	53,418	2,219
11 月	602,420	310,328	49,086	7,959	86,312	10,743	32,225	16,013	24,147	10,937	52,508	2,162
12 月	633,207	325,234	51,663	8,513	90,717	11,280	33,692	17,036	25,222	11,636	55,987	2,227
1 月	645,750	331,298	52,019	8,829	92,456	11,185	34,749	17,486	25,865	12,036	57,569	2,258
2 月	614,082	312,946	49,521	8,382	88,672	10,472	33,129	16,653	24,789	11,472	55,775	2,271
3 月	666,347	335,386	54,152	9,249	97,760	11,542	36,017	18,526	27,139	12,421	61,632	2,523
24 年度 4 月	649,417	325,403	53,039	9,170	96,089	11,050	35,816	18,021	26,669	12,113	59,575	2,472
5 月	671,328	339,593	54,297	9,227	98,067	11,665	36,780	18,427	27,627	12,313	60,803	2,529
6 月	642,043	331,311	51,516	8,701	91,724	11,050	34,328	17,034	25,850	11,373	56,767	2,389
7 月	644,196	337,854	51,884	8,548	90,654	11,038	33,415	16,758	25,390	10,975	55,312	2,368
前年同月比	103.3%	102.3%	110.0%	103.5%	103.5%	98.0%	103.9%	102.3%	103.1%	100.3%	104.9%	102.9%
24 年度 累計	2,606,984	1,334,161	210,736	35,646	376,534	44,803	140,339	70,240	105,536	46,774	232,457	9,758
前年同月比	102.5%	101.2%	112.1%	100.1%	103.4%	98.7%	102.5%	100.8%	101.9%	98.4%	103.4%	101.7%

北海道の月別生乳生産量



都府県の月別生乳生産量

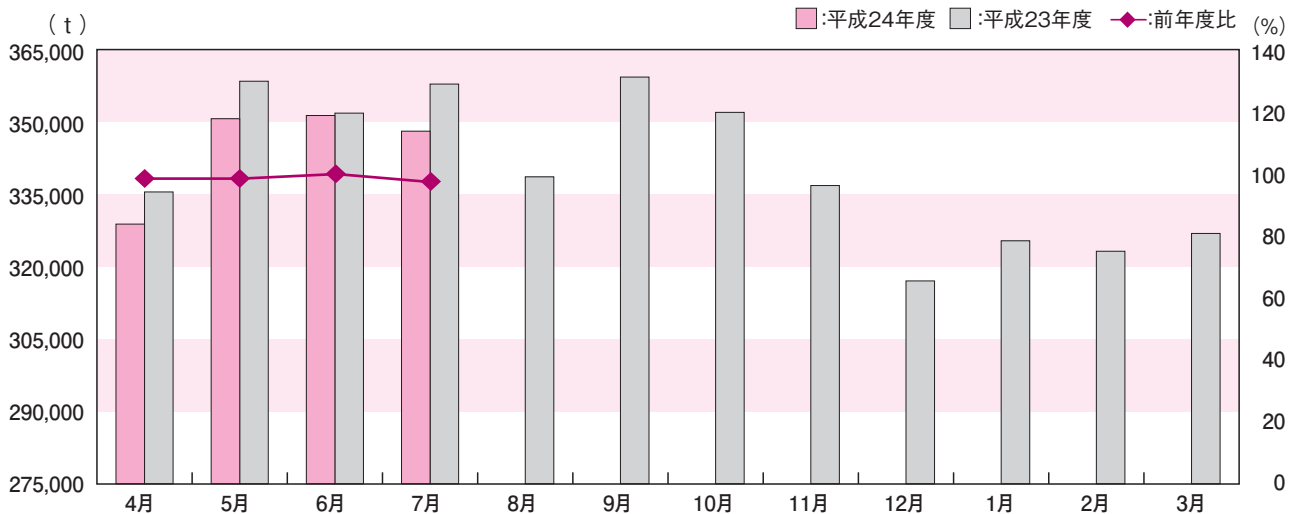


平成24年度（7月）用途別処理量

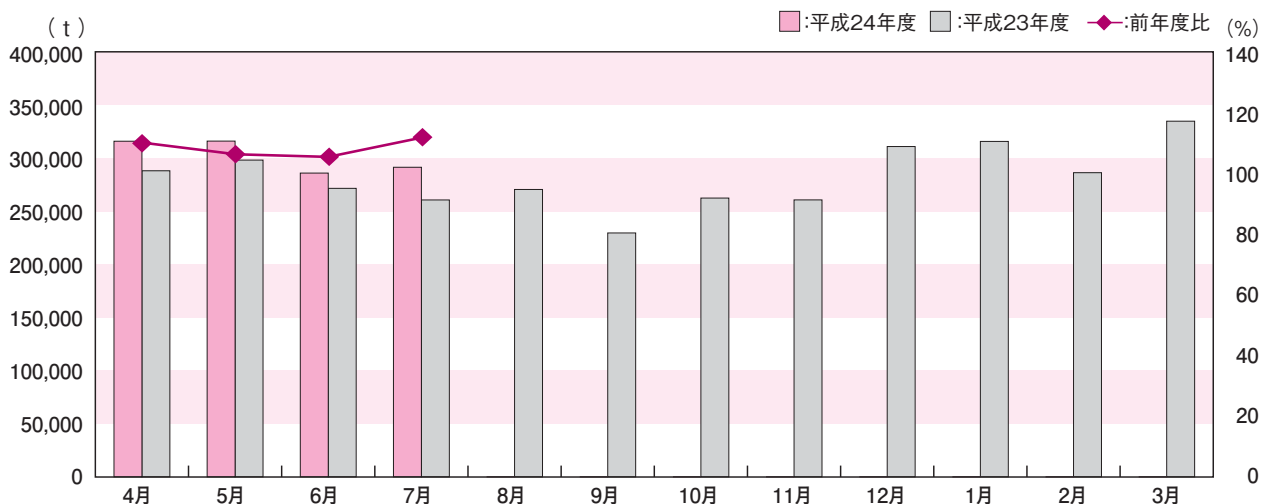
単位：t

	用 途 別 処 理 量							
	生乳生産量	牛乳等向け	業務用向け	乳製品向け	チーズ向け	クリーム等向け	その他	欠 減
23 年度 7 月	623,805	357,820	21,463	260,499	40,080	106,648	5,486	1,054
8 月	614,552	338,603	24,216	270,357	40,712	106,994	5,592	1,102
9 月	594,466	359,270	27,189	229,452	32,181	104,967	5,744	1,192
10 月	619,843	351,958	29,171	262,271	38,368	110,428	5,614	1,076
11 月	602,420	336,798	29,374	260,547	38,338	108,557	5,075	886
12 月	633,207	317,039	27,191	310,749	39,974	109,880	5,419	957
1 月	645,750	325,351	24,812	315,558	46,565	96,795	4,841	1,002
2 月	614,082	323,184	25,383	286,133	45,293	99,089	4,765	961
3 月	666,347	326,874	28,301	334,591	48,467	109,346	4,882	1,038
24 年度 4 月	649,417	328,810	27,221	315,743	41,550	105,614	4,864	1,014
5 月	671,328	350,642	23,794	315,862	44,713	107,516	4,824	1,019
6 月	642,043	351,307	22,672	285,771	40,825	106,295	4,965	1,144
7 月	644,196	348,063	23,731	291,244	41,566	111,117	4,889	1,038
前年同月比	103.3%	97.3%	110.6%	111.8%	103.7%	104.2%	89.1%	98.5%
24 年度 累計	2,606,984	1,378,822	97,418	1,208,620	168,654	430,542	19,542	4,215
前年同月比	102.5%	98.2%	102.9%	108.1%	101.4%	107.2%	90.1%	97.4%

牛乳等向け処理量の推移



乳製品向け処理量の推移



※農林水産省統計部が公表した「牛乳乳製品統計」をもとに本会酪農部で集計した。

ちょっと役立つ パソコンの特技

自動で連続データ入力

(動作確認:Excel2003,2007,2010)

エクセルで、A1のセルに「月曜日」と入力し、セルの右下をクリックして右にドラッグすると「火曜日」「水曜日」「木曜日」と自動で入力することができます。同じように「睦月」だと「如月」「弥生」「卯月」となり、「子」だと「牛」「寅」「卯」と自動で表示されます(図1)。

	A	B	C	D	E
1	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	
2	睦月	如月	弥生	卯月	
3	子	丑	寅	卯	
4					
5					

図1

では「おひつじ座」と入力して同じ操作をしてみるとどうなるでしょうか。残念ながら隣のセルは「おうし座」にはならず、「おひつじ座」が延々とコピーされるだけです。(図2)。

	A	B	C	D	E
1	おひつじ座	おひつじ座	おひつじ座	おひつじ座	
2					
3					

図2

これは、メニューの「ツール」→「オプション」→「ユーザー設定リスト」タグにあるリストに登録されていないことが理由です(図3)。逆に言えば、ここに登録さえしてしまえばどんな内容でも連続データとして入力することが可能になります。例えば、図4のように「追加」ボタンを押した後で、「東京」「有楽町」「新橋」「浜松町」「田町」と入力し、「OK」ボタンで登録すれば、図5のように「東京」から「田町」まで自動で入力することができるようになります。

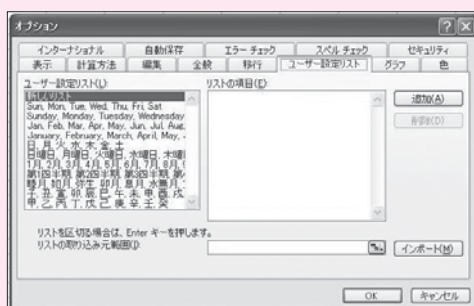


図3

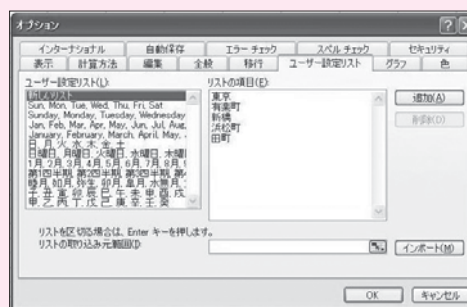


図4

	A	B	C	D	E	F
1	東京	有楽町	新橋	浜松町	田町	
2						
3						

図5

新規就農を希望される方、経営委譲を希望される方

酪農ヘルパー全国協会ホームページの新規就農情報にアクセスしてみてください。
全酪連のホームページからも入れます。

<http://www.zenrakuren.or.jp/>

全酪連ホームページのトップ ➡ 右下リンク ➡ 新規就農情報 [社酪農ヘルパー全国協会]



北海道 乳牛産地情報

平成24年9月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765
 釧路事務所 TEL 0154-52-1232
 帯広事務所 TEL 0155-37-6051
 道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇩……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	27~32	→	札幌管内の8月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で102.6%累計101.2%、苫小牧管内月計で98.9%累計100.3%の実績となっております。初妊牛の価格動向ですが、秋分娩から年内分娩が購買対象になる事から府県需要の大きな変化は望めないことにより、初妊牛、経産牛とも横這いの価格で推移するものと思われます。
	初妊牛	46~50	→	
	経産牛	40~45	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	30~35	→	根釧管内の8月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で102.1%累計101.0%、中標津管内月計103.6%累計で102.2%の実績となっております。9月の初妊牛の動向ですが、11月分娩から12月上旬位までの腹が中心となり、価格については、良いものと悪いものの価格差がつき易い状況になるものと思われます。腹内についてもET腹>選別腹>F1腹>ホルス腹という価格の序列で動いており、ホルス腹については現在のところ引合いが少ない状況です。
	初妊牛	48~55	→	
	経産牛	40~48	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	29~34	→	帯広管内の8月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で102.3%累計101.4%の実績となっております。9月の初妊牛動向につきまして、11月~12月分娩腹中心で、価格も今のところは横這いで推移するものと思われます。しかし、徐々に府県購買の問い合わせが多くなってきておりますので、今後は堅調に推移していくものと予想されます。F1腹とホルス腹については、牛なりで評価されているため両者の価格差は2~3万円程度であります。性選別腹、ET腹につきましては、資源に限りがありますので、希望される方は早めのご連絡をお待ちしております。
	初妊牛	48~53	→	
	経産牛	45~50	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	25~30	→	道北管内の8月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で103.4%累計100.8%、北見管内月計で103.6%累計101.4%の実績となっております。初妊牛の動向は、8月は価格が一時下落傾向でありましたが、9月は府県購買の注文も増えていることから、今後の価格動向については注視する必要があります。分娩条件は10月下旬~11月で、F1腹の注文が多いため、ホルス腹の方が資源は潤沢にあります。
	初妊牛	47~52	→	
	経産牛	40~47	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	30~35	→	道内の8月中旬までの生乳生産量前年比は月計で102.9%累計101.4%と7月に続き分娩頭数も多く、生乳生産量を大きく伸ばしております。9月の初妊牛の動向ですが、猛暑が収まるはずの中旬以降に動きが活発化すると予想されます。分娩は11月分娩のF1が中心で取引され、価格は横這いで推移するものと思われますが、下旬以降は動きが早くなりますので、早めのご注文をお願いいたします。
	初妊牛	48~53	→	
	経産牛	45~50	→	

※上記相場は、血統登録牛(中クラス)の庭先選畜購買による予想相場です。庭先選畜購買のため、市場購買とは異なり、価格差が生じます。

今月の表紙

レッツメリーゴーランド

今月の表紙は、「第3回酪農いきいきフォトコンテスト」(第41回全国発表大会にて開催)で優秀賞を受賞した「レッツメリーゴーランド」(愛知県 森 富士樹氏 撮影)です。いくら回っても追いつかない様子について顔がほころんでしまう、心温まる作品です。



▼ロンドンオリンピックが閉幕しました。選手たちの気迫のこもった演技に一喜一憂された方もいらっしゃるのではないのでしょうか。真剣勝負は、常に観るものを魅了します。

▼今月号より、全酪連会報の編集担当が変まりました。毎月の発行が楽しみになるような会報作りができるよう努力して参ります。

▼会報についてご希望・ご意見・ご感想等がありましたら、お気軽にお申し付けください。

編集後記

平成24年9月10日発行(毎月1回10日発行)

ZENRAKUREN
MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報 9月号 No.564

●編集・発行人 中島 裕志郎

●発行 全国酪農協同組合連合会

〒108-0014 東京都港区芝四丁目17番5号

TEL 03-5931-8003

http://www.zenrakuren.or.jp/



つかれた牛

大泉東小学校(関甲信)5年 米沢郁海

今月の



入賞作品介绍



今月の入選作品は、大泉東小学校(関甲信)5年の米沢郁海さんの「つかれた牛」です。存在感のある牛さんを斜め前から描いた作品です。牛さんの体の量感がうまく捉えられています。一瞬横を向いた表情からは、「つかれた」感じが伝わり、作品にいぶし銀の輝きを与えています。

※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第39回らくのうこどもギャラリー」で全国461点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議